

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症高齢者グループホームおおやちの家
(ユニット名)	梅ユニット
所在地 (県・市町村名)	新潟県新潟市江南区うぐいす2-7-5
記入者名 (管理者)	金内 裕一
記入日	平成 20年 3月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさ 主体性の尊重」を介護理念の中核とし、ホームの理念を構築している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「慈悲と至誠」を共有している。		利用者の為にどのように実践していくのか？個々の職員が理解に努めなければならない。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域に十分な取り組みを十分に行っているとはいえない。		地域の方にも理念を理解していただく取り組みを行って行く。(ホーム広報誌などの配布)
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者の方の散歩時に挨拶を交わす機会はあるが、気軽に立ち寄っていただける積極的な取り組みは特にしていない。		今後はホームの行事などに参加して頂く。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、納涼祭など地域の行事に参加して地域の方の交流が出来るよう努めている。		地域との交流をさらに増やしてゆく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者に気軽に立ち寄っていただけるよう取り組んでいきたい。</p>		<p>地域の方にも気軽に来訪していただけるよう、働きかけてゆく。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価の意義を理解し、話し合いを行っているが、その時間を多く確保出来ていない。</p>		<p>多忙ながらも、時間を確保し、継続的に自己評価を行っていく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議においては、外部からの率直な意見をいただける良い機会であり、頂いた意見はサービスに反映できるよう努力している。</p>		<p>積極的なご意見を頂き、サービスの向上に努める。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村との連携の機会は少ない。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護については、全体会議で触れてはいるものの、実務面において、職員が実務に触れることが少なく具体的な内容を学ぶ機会が少ない。</p>		<p>今後勉強会を通して学ぶ機会を多く取りたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法律については特に学ぶ機会は持っていないが、勉強会にて虐待について学び虐待防止に努めている。</p>		<p>勉強会や研修会を通し学ぶ機会を多く取りたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書を読みながら一つ一つ確認し、十分な説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情を真剣に受け止め聴いている。が外部に表出する機会は設けてはいない。</p>		<p>利用者の不平や不満は、ご家族へも通知し、第3者の方へも表出する機会を設ける。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に広報や手紙を家族に送付し、暮らしぶり等をお伝えしている。面会時、職員より随時報告している。</p>		<p>今まで通りに広報や手紙を家族に送付。家族との関係作りを積極的に行う。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の意見、不満、苦情があるときは、時間を設け聴くようにしている。外部者へ表す機会は設けていない。</p>		<p>外部者へ表出できる機会を作って行きたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニットリーダーを通し職員の意見や要望を聞くようにしている。</p>		<p>定期的に職員の要望などを聴く機会を設ける。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族の要望に柔軟に対応できるよう努めている。できるかぎり職員の勤務調整も出来るよう対応している。</p>		<p>十分に対応できているとはいえないのでさらに柔軟な対応が出来るよう検討したい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者のユニット間の異動があった場合、馴染みの職員に支援を受けられるような体制を組むようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修しているものの、体系的な研修内容にはなっていない。具体的な育成計画はない。		内部研修は体系的に組み立て、継続的に行って行く必要がある。職員が段階に応じ成長できるような仕組みづくりを行う。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を中心として、学ぶ機会は多いが地域の事業所などとの継続性のあるネットワーク作りには至っていない。運営推進会議などを通して情報交換は行っている。		地域の事業者との情報交換を活発に行い、事業所の質の向上に努めたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の異動などや話は聴くようにはしているものの、積極的な対応までには至っていない。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	具体的な取り組みは行っていない。		職員の成長に応じ働き甲斐のある職場にしてゆく。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までに本人と家族にはできるだけ来訪して頂き、本人の訴えや要望、家族の希望などを聴いている。		不安を出きただけ解消できるように検討。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	心配なこと、不明なことなど納得が行くまで相談するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談には出来るだけ本人の来訪して頂き、本人の能力を見極め、早期入居がよいか、在宅サービスが適当か見極めるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前は不安感がおおきいので何度か来訪頂き、不安感を解消するように心がけている。時には家族の方とホームで過ごしていただく時間を多くとって頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一人一人の笑顔を大切にしており、調理や洗濯干し、掃除その他、昔ながらの知恵等を教えてもらっている。		本人の可能性や意向を尊重し、共に助け合い支えあう機会を大切にする。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加を呼びかけ、一緒に楽しい時間を過している。面会時等家族から情報収集し、コミュニケーションを図り、ホームと家族が本人をささえるよう努めている。		家族の思いを大切にした関係作りに努めてゆく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、利用者から情報を収集し、より良い関係作りが出来るように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望にそって馴染みの人、場所へ出かけている。電話を通じて関係を継続している。		希望に沿って出かけるようにしているが、ホームに馴染みの方も積極的に来て頂けるような取り組みも必要。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーション、協同作業の機会を作り孤立しないような対応をしている。食事席を工夫したり、仲の良い方同士が過せるよう配慮している。		利用者の主体性を重視し、職員が介入しすぎないように配慮していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅に退所した方も生活には不安を持っている場合があり、相談に来られた場合には対応している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や散歩、入浴など本人の希望や意向を表出できる機会を提供している。本人の意向に応じた把握に努めているがときには、職員本位になりがち。		利用者の意向に沿ったケアに取り組んではいるものの、全ての要望の把握が出来ているわけではなく、検討が必要。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを、利用者やご家族との会話の中で、把握に努めている。が把握は不十分。		家族からより多い情報を集める。実際に活動や支援を行う中で引き出して行く。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日一日の本人の状況を細かく記録し、把握に努めている。健康状態も毎日のバイタル測定を通し把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が利用者の状況を把握し、家族の方と相談しながら介護計画を作成している。		計画作成担当者が、指揮を執りながら、現場職員の気づきをもとに利用者、家族、関係者とカンファレンスを通し作成してゆくよう努める。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のカンファレンスを通し、利用者のケアの見直しは行って現状に応じたケアに取り組んでいるが、計画書の変更は行っていない。		利用者の状況に変化が見られたときには、随時見直しを行うとともに、定期的な見直し時に計画書の変更をおこなう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は詳細に記入しており、連絡ノート、カンファレンス会議等でも情報を共有している。実践の見直し時に活用している。		今後情報交換をしっかりと行い実践や介護計画の見直し時に活用する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当法人はグループホーム2ユニットのみであり、ユニット間の異動などの対応はしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアさんが月に1回来て頂いて利用者の方を楽しませていただいている。消防署とは、避難訓練において指導を頂いている。		地域とのネットワーク作りに努め、協働できるよう努める。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、運営推進会議をとおして、ケアマネと話し合う機会はあるが、他のサービス支援には至っていない。		地域のケアマネとの連携を強化し、より良いサービスを提供して行く。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は地域包括支援センターとの協働はほとんどない。		地域の資源の活用の機会を増やし、支援センター連携できる体制をつくる。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の祭に雇い付けのドクターの希望を提示して頂き、適切な医療が受けられるように支援を行っている。ホームドクターは週1回往診して下さっている。具体的		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームドクターは認知症に対する見識が深く、ケアについて職員が相談したり、研修会で学習機会を設けて認知症について説明をして頂いている。		今後も認知症の理解を深めて行くようホームドクターから指導を頂きながら支援して行きたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護師が利用者の健康管理を行っている。緊急時や夜間帯は電話にて対応している。		看護師との更なる連携の強化。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院とは、早期退院に向け、MSWと連携を取っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応が不十分である。職員間で方針も共有も不十分である。		早期に重度化を予測し、職員間で今後の方針を共有してゆく必要がある。家族やホームドクターにも早期に相談する。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	具体的な対応はまだまだ検討して行かなければならないが、ホームドクターの協力を得て、ホームの職員が出来ることを検討している。		今後その人を大切にしたい終末期の支援を検討していく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までの住居から住まいが変わるため混乱しないよう馴染みのものを多く持ってきていただいている。自宅での過ごし方など家族から情報を得ながら対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録や個人情報などは利用者の目につかないところに、保管している。言葉掛けは、個々人を把握し、尊厳をもって対応している。</p>	<p>今後さらに個人情報の管理や言葉遣いには注意して尊厳のある対応を心がける。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>買い物や、入浴等本人の希望を常に伺い、引き出せるように努めている。出来るだけ本人の希望を尊重し、本人が具体的に希望を表出できない場合は、選択肢を提供している。希望通りにできない場合でも納得して頂ける様説明している。</p>	<p>特定の方に偏らないように平等に希望を表出できるようにする。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来る限り本人のペースにあわせた対応を心がけているが、希望が重なった場合など一人一人のペースに合わせる事が困難なことも多い。</p>	<p>出来るだけ本人の希望に沿って過していただけるような援助を検討してゆく。</p>
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容、美容は地域の美容院を利用している。又家族と一緒に美容院にでかけられる方もいらっしゃいます。</p>	<p>おしゃれは利用者にとって楽しみであり、その人らしさの支援を今後も続けて行く。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備はなるべく利用者の方に手伝っていただいている。献立の会話を通して利用者と楽しみながら食事作りを行っている。</p>	<p>利用者の嗜好や希望を十分に取り入れて献立をつくる。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>健康に配慮し、本人の嗜好を楽しんで頂いている。晩酌なども個別に対応している。健康状態を考え希望に沿えない状況のある。</p>	<p>本人の嗜好を大切に、出来る限りの支援をしてゆく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時に排泄の誘導やチェックを行っている。一人一人の日中や夜間の排泄状況を把握し、誘導を行ったり、排泄の自立を促している。		排泄パターンを把握し、失禁を防げている方もいらっしゃる。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望やタイミングを把握し、そのタイミングで入浴できるよう声掛けの工夫をしている。出来るだけ希望にそった時間に入浴していただいているが、業務の時間帯になることもある。		入浴時間の希望や体調に合わせた入浴が出来るよう業務の見直しも検討する。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室温の調整や寝具の交換。寝巻きの着替えを行い本人がリラックスできる環境作りに努めている。居室でゆっくり過せるよう声掛けを行ったり、畳コーナーやソファで休息できるよう支援している。		日中、居室で休めない方にはドライブ、買い物にお誘いし、気分転換することで、落ち着き、夜間も安眠されている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来るだけ対応はしているものの、個別の対応には偏りが見られる。台所仕事 掃除などをしていただき張り合いを持っていただけるよう支援している。が楽しみには至っていない。		個々の生活歴を把握し、個別対応できるよう努める。気晴らし(散歩や外出)が業務の都合でできないことが多く、業務の見直しやホーム内でできる楽しみを検討。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を個人が自由に使うことはとても重要なことであるが、所持できる能力のある方のみ所持していただいている。所持が困難な方は事務室にて管理している。		出来る限り本人の希望に沿った所持が出来るよう検討して行きたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り希望に沿い外出の機会を設けているが、希望に沿えないことも多い。		業務内容を見直し、希望に沿えるよう検討したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブなど外出の機会が多いものの、一人一人の希望に沿った支援は現在は困難。家族の方に外出支援をお願いするケースもあるが利用者によって偏っている。		利用者の方の希望を把握するよう務め支援して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった場合、介助を行っている。		ホーム便りなど手紙を出す機会を利用して行く。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでもホームにきて頂ける様、家庭的な雰囲気をだすよう努めている。希望者には食事も提供している。		更に来訪しやすくなるよう行事への参加等の機会を増やし、ホームと家族の交流を増やす。家族がだんらんできるスペースを作る。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束について十分な知識をもっているとはいえない。手をつなぎ職員本位で誘導したり、本人の希望を言葉で抑制することも見られる。厚労省の定めた項目にあてはまる拘束はしていない。		身体拘束についての研修会を通し拘束についての認識を深めてゆく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室内や玄関には施錠していない。出入りは自由になっているが、玄関から出る時はチャイムがなるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の保護的な見地から、本人の所在や、行動を確認している。日中は全体が見える場所に職員がおり、見守りを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や洗剤など使用について危険の少ない方には使用していただいている。管理が不十分な場合もある。爪切りやはさみは一人一人の状態に応じて馴染みのものを自室に置いている。		危険物の管理については十分注意をする。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常時職員同士の情報交換を行い、ヒヤリ ハットを活用し、自己防止に取り組んでいる。		事故防止にむけた会議やカンファを通し、防止に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時のマニュアルは作成されてはいるが、全ての職員が、応急手当、初期の対応ができるとは言えない。		急変時や事故の対応を定期的に見直してゆく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練は定期的に行ってはいるが、昼間の訓練のみで夜間の訓練は行ってはいない。地域の協力体制も不十分		全ての災害に対応できるようにマニュアルを再度整備しなおし、夜間帯の災害にも対応できるよう訓練を行う。地域の方にも協力していただける体制作りに努める。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人一人の状況を把握し、家族の来訪時に説明はするよう努めているが、十分に説明できているとは言えない。		早期にご家族と話し合いリスク対応を検討してゆく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化を職員間で口頭や記録で共有、共用している。ホームドクターもホームから近隣であり、緊急時や異常時に24時間体制でサポートしていただいている。		利用者の身体の状態には常に配慮し、早期の発見に努める。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解には努めているが、全ての薬の服薬目的や、副作用まで理解しているとは言えない。NSが中心となり、勉強会にて理解する機会を設けている。		薬についての勉強会を設ける。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の影響は十分認識している。便秘を改善する野菜や水分等多く摂取できるようしているが、日中の運動量の確保は不十分。		定時に運動をしていただく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアや誘導を行っている。しかし十分に磨き切れない方もおり、利用者の口腔衛生は介護職員のみでは難しい。		歯科医と連携し、利用者の口腔衛生に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の管理には十分気を付けており、定時に水分を補給していただいている。一人一人の習慣や健康状態に応じ食事量を調整して提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが作成されており、手洗いやうがい等感染予防に努めている。		まずは感染の予防に努め、感染があった場合も適切な処置が受けられるよう努める。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については、賞味期限を徹底しており、管理に努めている。調理器具も衛生管理を怠らないよう注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は自動ドアであり、家庭の玄関と赴きは違うが、違和感なく出入りができるよう配慮している。玄関脇には花木が植えられている。		エントランスの雰囲気明るくする。入り易い雰囲気を作る。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、できるだけ居心地よく過して頂ける様、季節感を出すよう心がけている。照明が直接目に入るため、眩しい。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、食卓や、畳コーナーで気の合った方で過せる空間はあるが、独りになれる空間は少ない。		独りでも楽しめる空間作りを行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に本人の馴染みのあるものをお持ち頂いている。本人の意向に合わせて環境作りを行っている。		本人の希望に応じ、居室の環境を整備してゆく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気扇を使用している。掃除の時間帯等に換気を行い、不快なおいがない環境作りに努めている。温度調節もまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリーであり、歩行困難な方に負担が少ない作りになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室が混乱しないように入りに名前をつけたり、ぬいぐるみを置いたりなどの工夫をしている。		混乱しないよう、分かり易い表示などさらに検討。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキがあり、外にでて景色を眺めたりできる空間になっている。		利用者の方が主体的に楽しめる空間作りを検討する。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の希望や要望、自主性を大切にしたケアに日々取り組んでいる。